

# 高齢者にやさしい奈良県づくり

令和6年12月3日（火）

知事定例記者会見資料

担当：医療・介護保険局

介護保険課 中屋敷、垣田 河内  
（内線 2850、2851、2852）

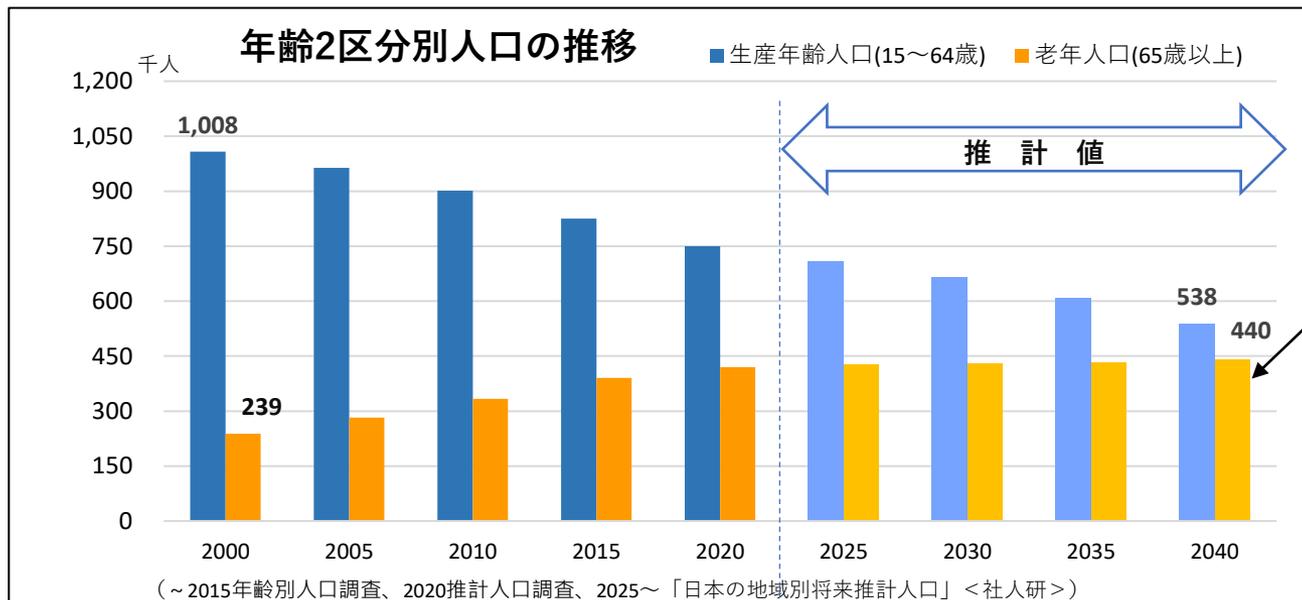
地域包括支援課 小林、福井、西川  
（内線 2860、3211、2853）

## 目指す姿

「高齢者が健康で生きがいをもって活躍し続けられるとともに、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる奈良県を目指す」（出典：奈良県高齢者福祉計画）

## 高齢者を取りまく現状

奈良県の人口は、1999年をピークとして減少し続けています。人口構造を年齢2区分別にみると、生産年齢人口（15～64歳）は減少し、老年人口（65歳以上）の割合が年々高くなっています。2040年には65歳以上の高齢者人口がピークとなると予想されています。

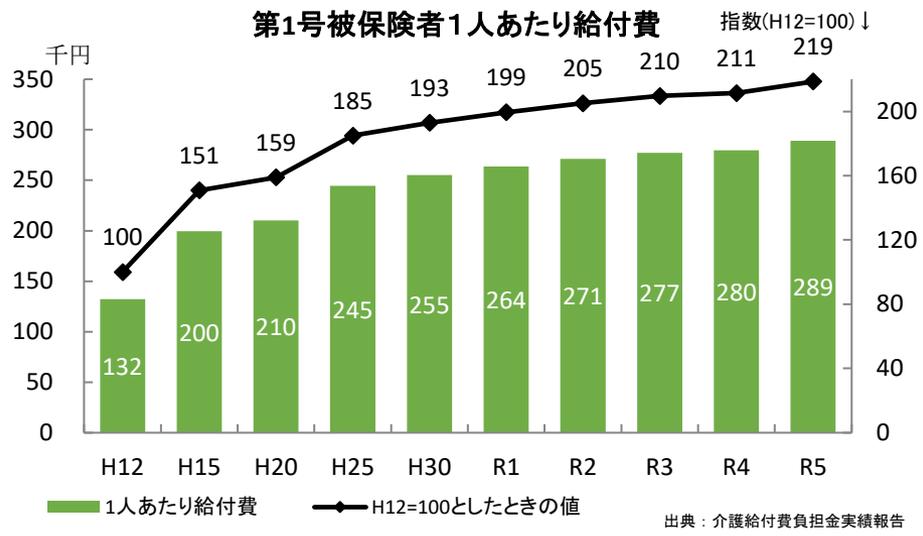


75歳以上高齢者人口の割合は、2040年に向けてさらに高まる。

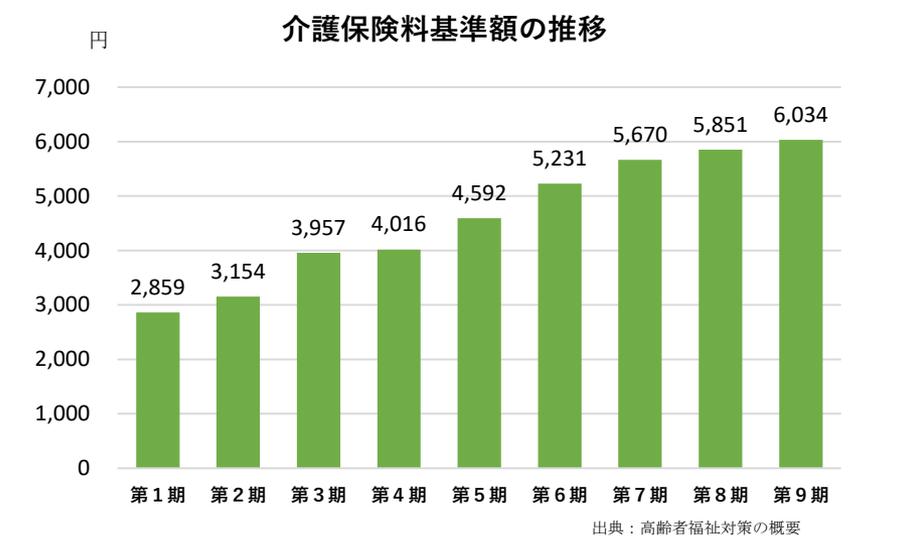
## 将来を見通した課題

- ・高齢化による介護給付費の増に加え、人口の減少による介護保険料1人あたりの負担の増大
- ・生産年齢人口の減少に伴う介護サービスを提供する人材の不足
- ・後期高齢者のさらなる増加により、介護サービスの質・量の需要が高まる

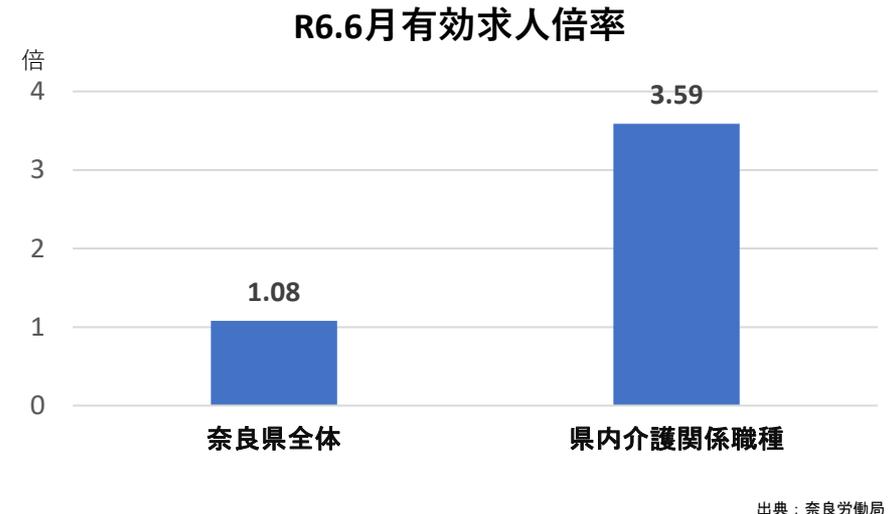
本県の第1号被保険者1人あたり介護給付費は年々増加しており、介護保険発足当時の平成12年から現在では2倍以上となっています。



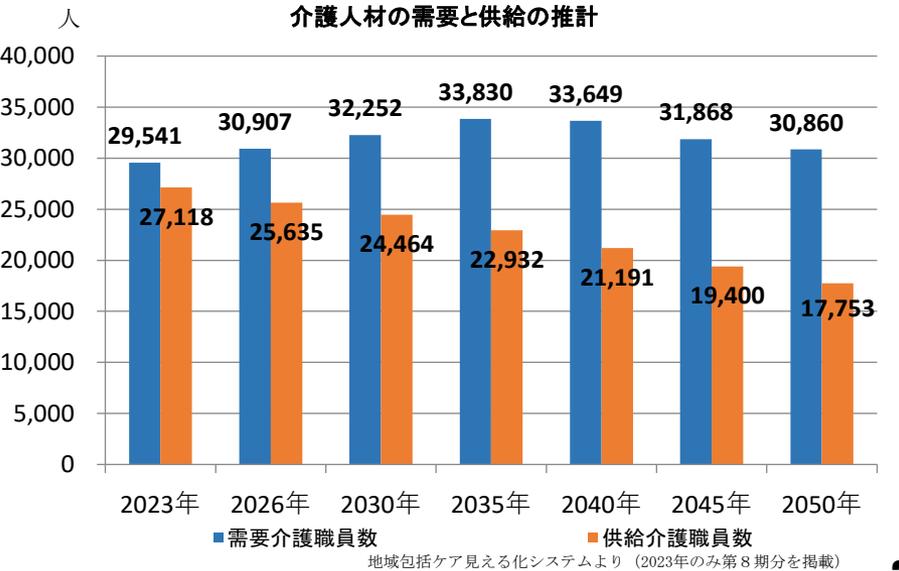
本県の介護保険料について、第1期 (H12-H14)は2,859円でしたが、第9期 (R6-8)になると6,034円と2倍以上上昇しています。



本県の介護関係職種の有効求人倍率は、全産業の中でも高い数値を示しており、介護業界は人材が十分確保できていない状況です。



介護人材の需要と供給の推計では、介護人材の需要を十分満たしておらず、将来になるほど人材不足はより深刻になると予測しています。



# 高齢者に関する奈良県の施策

奈良県では、

- ・いつまでも、健康で生きがいを持って過ごすことができるよう、たとえ介護が必要になっても、その人らしく暮らしていくことができるよう支援します。
- ・高齢者一人ひとりが「元気な時期」「要介護期」など、それぞれのライフステージに応じて、本人の意思決定を基本に、**住まいや医療・介護サービス、生活支援等が柔軟に選択**できるよう、**支援体制の構築を推進**します。

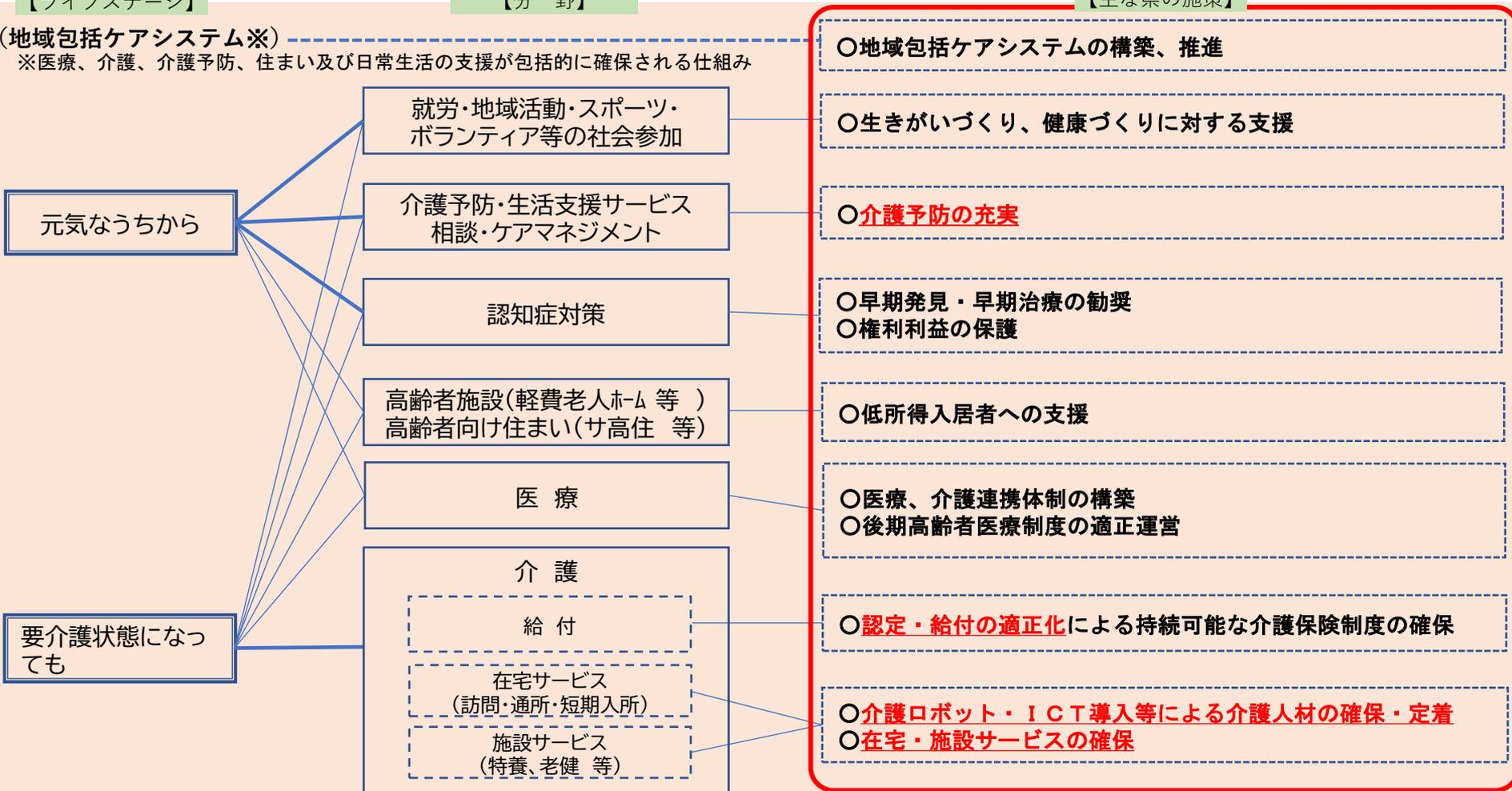
【ライフステージ】

【分野】

【主な県の施策】

(地域包括ケアシステム※)

※医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される仕組み



## 介護予防の充実

○高齢者が自分らしく生きがいを持っていつまでも地域の中で暮らし続けるには、介護予防の取組が重要であり、介護給付費の抑制にもつながります。市町村が実施する取組をより効果的なものとするため、**先進的な取組事例の紹介や市町村に対する個別の支援などを実施します。**

### ○「地域活動事例」の展開

令和6年度に作成した「地域活動事例集」を活用し、介護予防などの先進事例を市町村に広げていくため、市町村に対して個別に支援をします。



生駒市 住民主体で行う  
介護予防「ひまわりの集い」



大淀町 住民主体で行う「いきいき百歳体操」

## 介護給付の適正化

○介護給付費は増加し続けており、介護保険制度を持続させるため、市町村が行う要介護認定と介護給付の適正化に対し、県が支援します。

### ○要介護認定の適正化

要介護認定の申請に係る認定調査の結果を点検し、不適切であれば是正

→県の支援

- ・認定調査員、認定審査会、主治医への研修を実施

### ○介護給付の適正化

ケアプランの内容について適切なものとなっているか点検し、不適切であれば是正

→県の支援

- ・ケアプラン点検に関する研修を実施
- ・点検の実施が困難な市町村にケアマネージャーを派遣

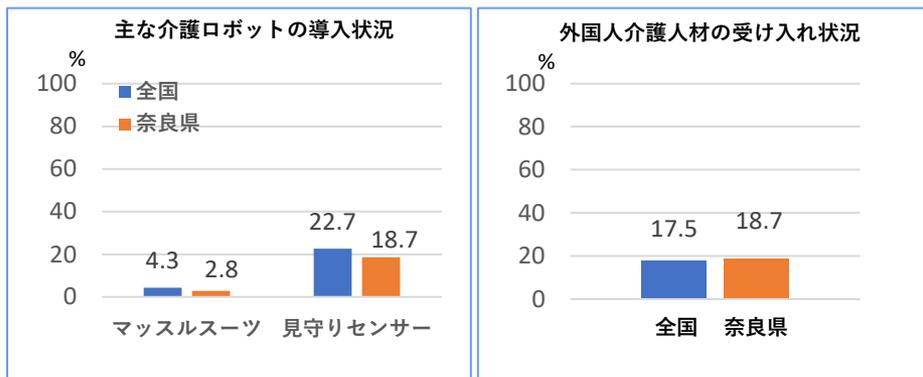
**（令和7年度～）有料老人ホーム等における過剰なサービスを盛り込むなどの不適切なケアプランの点検を県が支援します。**

[不適切と疑われるケアプランの例]

- ・入居者の状態から見て、必要ではない介護保険サービスがケアプランに組み込まれている。
- ・入居者の意思を確認することなくケアプランが作成されている。

## 介護ロボット・ICT導入等による介護人材の確保・定着

○生産年齢人口が減少し続ける中、質の高いサービスを提供するための介護人材の確保が深刻な課題です。そのため、**介護ロボット等の導入による介護職場の環境改善と、外国人材の登用の強化**に取り組みます。



出典：令和5年度 介護労働実態調査

### ○介護職場の環境改善に資する介護ロボット等の普及促進

- ・介護ロボットやICTの導入により職場環境の改善に取り組む介護事業所を支援します。
- ・介護ロボット等を導入しようとする介護事業所に対して、導入や活用に関する相談やアドバイザー派遣等の支援を実施する相談センターを設置します。

### ○本県の介護人材確保に資する海外現地での取組に対する支援

- ・海外において、現地の学校との連携や広報を行う介護事業所を支援します。

## 施設サービスの確保

○介護サービス需要の急激な高まりに対応するためには、施設の数を確認することが必要となっています。そのため、施設を新たに設置するだけでなく、**古くなった施設の長寿命化を図ることが喫緊の課題となっています。**

### ○高齢者施設の長寿命化を図るための支援

- ・奈良県における高齢者施設については、需要のピークである2040年に向けて計画的に確保します。

特別養護老人ホーム（以下、中核市である奈良市を除く）  
（2023年） 5,954床

→ **（2040年）6,629床（2024～2040年：+675床）**

2023年	2024年～2039年	2040年
5,954	+675	6,629
<b>-1,046</b>	新設	<b>1,046</b> <b>長寿命化</b>

- ・既存の施設のうち計1,046床については、2040年までに耐用年数が到来します。

→ **このことを踏まえ、施設の長寿命化を図るための支援を、令和8年度から近畿で初めて実施します。**